

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年10月17日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873100762		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホーム もくれん	ユニット名	西館
所在地	〒311-3412 茨城県小美玉市川戸1425-14		
自己評価作成日	平成28年5月6日	評価結果 市町村受理日	平成28年10月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873100762-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年7月21日	評価機関 決 済 日	平成28年10月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域の皆様方が、気軽に出入りしやすいような 玄関先やロビーなどの雰囲気作りを大切にしています。自然環境に恵まれた中で、その時々季節を感じその人らしさを大切に安心して生活が出来る、楽しみ事を中心にした介護を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は大きな道路から少し入ったところに立地し、周りは緑豊かな環境となっている。
職員が手入れしている花のプランターが道路沿いにあり、事業所まで導いてくれている。
玄関前の椅子に座って、利用者は外の景色を楽しみながらゆっくりと生活することができるほか、玄関には杵と臼が置いてあり、ホッと空間となっている。
中庭ではかぼちゃや小豆などを栽培し、利用者は職員と一緒に楽しんでいる。
紙や古布を活用して制作した手作り作品が、いたるところに飾ってあるほか、居間兼食堂には家族等が栽培した花が常に飾ってあり、豪華な雰囲気となっている。
職員は自然豊かな環境で利用者の思いに寄り添いながら、職員自身ものんびり利用者と一緒に和気あいあいと生活している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を、各ユニットごとに見やすい所に掲示し、更なる実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を管理者と職員で作成し、ユニット毎の玄関や居間兼食堂、タイムカードの横などに掲示しているが、長期勤務の職員が多く、改めて理念の意識付けをするまでには至っていない。	全職員が事業所の理念を理解して日々利用者に関わるよう、職員会議などでも確認し、話し合うことを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々との交流を大切にし、行事などにも一声かけて参加していただいている 毎年野菜を頂いたり、草刈・雪掻きのボランティアの方々にお礼を届けたりと、地域とのつながりを大切にしている	事業所では自治会に加入したいと話しているが、自治会から賛同が得られず保留となっている。 近隣住民が事業所の塀の草取りをしてくれたり、キュウリや蓴、筍などのお裾分けをしてくれている。 地元の小学校に花見に行き、リコーダー演奏や歌を聞いてきたり、高校生の職場体験の受け入れをしており、地域の子も達と交流しているほか、楽器演奏や踊り、手品、リハビリ体操、買い物ボランティア、ヤクルト健康体操などを受け入れ、利用者が日々楽しめるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣のコンビニやスーパーへの買物に出かけ、店側や近所の方々へ認知症の理解を深めてもらい、利用するにあたって協力も得ている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	より多くの委員メンバーより、色々な意見を出してもらい、サービス向上に活かしている	運営推進会議は家族等の代表や市職員、民生委員、代表者、統括で2ヶ月に1回開催している。 会議では行事や利用者の状況、事業所の取り組みなどを報告し、参加者と意見交換を行っている。 家族等から緑茶が感染予防に良いと聞き、1日1回緑茶でうがいをするようにしたほか、災害時には飲料用の井戸水を提供する旨の提案を受けた。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何か相談事があれば、話しが出来る協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者が毎回運営推進会議に出席しているほか、管理者は電話だけでなく、要介護更新申請などで直接市窓口に出向いた時などに、情報交換をしている。 利用者が骨折した際や熱中症対策について相談をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束のないケアの実践に取り組んでいる	身体拘束廃止に向けたマニュアルは作成しているが、定期的に職員の内部研修を行うまでには至っていない。 日中は玄関の施錠をせず見守り、身体拘束をしない介護に努めている。 以前やむを得ず身体拘束を行っていた利用者がいたが、その際に書面にて同意は得ていたが、「経過観察記録」や「再検討記録」を整備するまでには至っていない。	身体拘束に関する研修を行い、身体拘束の弊害を職員に周知することを期待する。 身体拘束を行う場合に備えて、「経過観察記録」や「再検討記録」を整備するとともに、拘束解除にむけた職員間での話し合い、経過や結果を記録する事を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をしない 事業所内での虐待もまた、見過ごされることのないよう徹底し、防止に努めている 研修を入れる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方がいる 職員は制度の内容の理解・学ぶ機会を持ち、みんなで話し合い、活かしていけるよう支援している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に時間を設け、納得のいくまで説明をしている。その後気づいた点や疑問に思ったことについては、電話や面会時に聴く体制作りをしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会時に言いづらい事は、自由ノートやご意見箱を玄関横に設け、意見・要望など気が付いた点を気軽に記入してもらっている	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記して、契約時に家族等に説明するとともに、苦情相談受付窓口を掲示して、家族等が意見や苦情を言える機関を周知している。 玄関に意見箱を設置したり、「自由ノート」を置いているが、家族等から意見が書かれたことはない。 利用者からは日々の会話の中から、家族等からは面会時や電話で意見や要望を聴くようにしているが、家族等の意見を反映した例は特にない。	意見箱や自由ノートにも意見があがってこないのが、意見が出し易いよう、無記名の家族アンケートを実施してみようことを提案する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から一日の流れの中で少しの時間があれば、意見や提案を聞く機会を設けている	管理者は日頃から職員の意見等を聞くよう努め、昼休みや朝礼時などに意見を聞いている。 「朝礼時の申し送りだけでは不十分なので、月1回ユニット毎にミーティングをして欲しい。」や「夜間自室で徘徊する利用者があり、危ないので筆筒を移動してはどうか。」との職員からの意見を受け実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体病院側ですべて行っている 家庭環境の変化により、就業時間帯の変更を行ってくれるなど配慮してくれる		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員の研修を受ける機会を取り、皆に研修報告書やミーティング時に発表することで、介護技術や質の向上となるよう取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者や他職種の方々との勉強会や訪問などを通じて、一つでも多くの物を取り込んで行きたい		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅以外での生活に対する不安は、想像以上のものかと思われる 心配事・不安・要望などに耳を傾け、少しずつ信頼関係を作り、その人らしい暮らし、力を発揮できる場所となる様支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の契約時には、納得のいくまで説明をしている 家族からの要望・困りごとなどを良く聞き、何かあれば、気軽に話しをしてもらええる雰囲気作りを大切にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位を生活の中で観察し、今この人が何を求めているのかを見極め、対応にあたっている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人と苦楽を共にし一緒に暮らし支えあいながら関係を深めていけるようにしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に面会に来ていただけるような雰囲気作りや、一緒に買物や食事に出かけたり出来るよう、さりげなく言葉かけをしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の取次ぎや友人の面会、場所との関係が継続できるよう支援している	入居時の聴き取りや利用者との日々の会話などから、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するよう努めている。 馴染みの店での買い物や自宅への外出・外泊、外食や墓参りなどに、家族等の協力を得ながら出かけているほか、電話の取り次ぎや手紙のやり取りなどを支援し、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	所々に長椅子を配置してあり、気のあったもの同士一人ひとりが孤立することなく支え合い、職員にも気軽に相談したり、声掛けあえる場所作りとなっている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約は終了しても今までと変わらず、電話や近くに来た際には、気軽に声掛けてもらえるような関係作りに努めている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族の面会時に家族に伺ったり、本人と雑談しながら意向を汲み取れるよう努めている。人それぞれ、好きな事・得意な事（パズル・庭の散歩・草取り・音楽鑑賞）をしながら自由に一日をすごされている	管理者と職員は、利用者の表情や仕草、態度のほか、個人記録から一人ひとりの思いや希望の把握に努め、申し送りノートに記載はしているが、日常の業務内容に埋もれて、職員に十分周知するまでには至っていない。 意思の表出が困難な利用者の場合は、家族等の来訪時に話を聴いたり、表情や仕草から思いや意向の把握に努め、利用者本位の支援に努めている。	利用者の思いや希望を把握した時、そこに居た職員だけが理解するのではなく、全職員に周知できるように工夫する事を期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の方との会話に加え、情報提供書などから、これまでの暮らしぶりやサービス利用状況を把握し、出来る限り今までの生活が継続して頂けるよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態、できる事への参加など気をつけて見るようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の見守りからの気づきや課題を、担当の職員や関係者で意見交換し、より良い暮らしのために介護計画の見直しを、変化に応じその都度行っている	介護計画は利用者や家族等の意向を取り入れて、管理者や職員で話し合い、計画作成担当者が作成し、家族等の来訪時に周知している。 モニタリングと短期目標は3ヶ月毎、長期目標は6ヶ月毎に設定し、利用者の心身の状態等に変化が生じた場合は、随時モニタリングを行って見直しをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子や気づいた事などを、介護記録・ケース記録に記入し、話し合いを持ち、実践や介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望や訴えを良く聞き、必要に応じて支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々・小中高校・ボランティア等と協力し合いながら、安全でその人らしい穏やかな生活ができるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、今までと同様のかかりつけ医の受診も出来る 納得が得られる治療が受けられるよう支援している	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能なことや、協力医療機関の医師をかかりつけ医にできることを説明し、かかりつけ医への受診は家族等の付き添いを基本としている。 2週間に1回の協力医療機関の医師による訪問診療と、月1回から2回の訪問歯科診療を受診することができる。 受診結果は家族等に電話や面会時に報告し、お薬ノートに記載して全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと違う様子や小さな気づき等も、訪問看護師や母体病院に連絡・相談している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院との情報交換・連絡を密に取り安心して治療が受けられるよう病院側との関係作りを行っている	/	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の際、家族の方と十分な話し合いを行い説明している	事業所は運営母体が医療機関となっており、看取り介護は行わないことを契約時に説明するとともに、「看取りに関する同意書」を作成して利用者や家族等に説明し、同意を得ている。 看取りは行わないとしているので、「看取りについての対応マニュアル」は作成しておらず、研修も行っていない。 医療行為を行う看取りは行わない方針だが、生活介護で支える範囲で、医師や看護師と連携が図れる場合は支援する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員がいざと言う時に確実・適切に行動が取れるよう、日頃より定期的に訓練を入れ実践力を向上させている	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練を実施している 昨年には近所の方々の参加もあり、地域との協力体制を今後も大切にしていきたい	夜間想定を含む避難訓練を地域住民の参加を得ながら年2回実施し、訓練の記録を作成しているが、職員で話し合いをしたり、次回につながる反省点を記載するまでには至っていない。 災害に備えて米や飲料水、食料品、懐中電灯、おむつ類、毛布などを備蓄している。	訓練後に職員で話し合い、次回につながる反省点を記録に残すことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際は一声かける・トイレの時はカーテンを閉めるを徹底している 過去の生活歴から本人を良く知る事に努め、人格を否定したり落ち込んだりする事のない様な言葉選びを念頭に置いて関わっている	職員は利用者の尊厳やプライバシーを大切にし、常に職員で話し合っって利用者の羞恥心や自尊心に配慮したケアに取り組んでいる。 家族等には個人情報に関して説明をし、書面にて同意を得ている。 個室に入る時には一声かけるなど、プライバシーを損ねない対応を心がけている。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかる書棚に保管し、情報の漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	人それぞれが自分の思いや希望を表すことができるよう時間をゆっくり取り、待つ事の大切さを心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの特徴を把握し、入居者のペースにそって見守りながら、一緒に楽しい時間を過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の床屋さんにかかる事ができ、ヘアースタイルも自由である 服装も一人ひとり好みの物を着ており、おしゃれを楽しめるよう支援している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付けを一緒にしたり、献立表を見やすい所に掲示している 近所の方から頂いた季節のふき・たけのこ・カボチャ等みんなで下ごしらえを手伝い、食事が楽しい物となるようにしている	献立は法人本部の管理栄養士が、利用者の好みや苦手な物を踏まえ、自家菜園で採れたかぼちゃやいんげん、小豆、ゴーヤなどを食材に取り入れながら作成している。 利用者はできる範囲で野菜の皮むきやテーブル拭き、下膳などの役割を担っている。 家族等の協力による外食支援やおせち、雛祭り、クリスマス会などの行事食のほか、冬に生寿司の出前を取るなど、利用者が食事が楽しみとなるように支援している。 職員は利用者と一緒に、会話を楽しみながら同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表に、食事の摂取量・水分量を毎日チェックし記録している 一人ひとりの健康状態や体重増減などを職員が把握している 食生活に対する支援を行う		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前後にうがい・歯磨きをしている 出来ない人へは、声掛け・介助が入る 風邪予防の為、緑茶うがいを取り入れている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべくオムツを使用しない事を目標にしている 排泄パターン、定時でのトイレへの誘導や兆候を見のがさないよう見守ると共に、自立に向けて支援している	職員は排泄チェック表や個人記録を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、利用者の仕草やサインから察知してさりげなく声かけ誘導し、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。 おむつから紙パンツや尿取りパッド、布パンツに改善した利用者もいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に配慮して、水分量・食事の工夫や便器に座ってもらうことを習慣づけていく事に取り組んでいる場合によっては、下剤を使用することもある		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日時は職員側の都合となっているが、その日の体調によっては、別日に他ユニットにて入る事もできる 洗身・洗髪など出来る人は自分でを行い、自分のペースでゆっくり入浴できるように配慮している	入浴は週2回午前中を基本としているが、利用者の希望でいつでも入れる体制となっている。 入浴を拒む利用者には強要はせず、職員や時間帯を変えたり、清拭で対応するなど、工夫をしている。 柚子湯や菖蒲湯、入浴剤などを取り入れ、季節感を出したり入浴が楽しみとなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズム作りをし、体操や活動の場を作っている わずかな時間ではあるが、午睡の時間をとり、安心して眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ノート(薬の内容・副作用などが書いてある)を常に見る事ができる 飲み忘れや誤飲のない様、見守り・確認をしている 何らかの変化があった場合には、直ぐに医師・看護師に連絡をとっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物や清拭タオルを畳む・ダンスの整理を行う・職員と草取りや花の手入れをする・野菜の皮むき・カラオケ・ボール投げ・ラジオ体操・パズルなど他にも楽しみ事が増えるよう支援していきたい		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の店での買い物や、お花見などの行事で外出できるよう計画を立てたり、家族と連絡を取り合い、自宅で過ごす時間が持てるよう支援している	天気の良い日には、利用者と職員と一緒に事業所周辺を散歩し、近隣住民と挨拶を交している。近くのコンビニエンスストアに買い物に行くこともある。 年間行事計画を立てて、家族等や買い物サポーターの協力を得ながら、車いすの利用者も一緒に花見や茨城空港など、普段行けない所にも外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる人は所持しており、外来受診の際に買い物をしたり、職員が頼まれて買ってこることもある 近くの店まで一緒に出かけ 買い物をする機会も増えています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に自由に電話が出来る様に、玄関ホールに公衆電話を設置している 年賀状・暑中見舞いなどの手紙の投函や電話の取次ぎも行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空港が近く、防音には気を使う 共用スペースには、その時々のお花や飾り物を置き、季節感を味わえるような工夫をしている 家庭的な空間、入居者が自分の力や意思で思い思いに動ける環境づくりを目指している	玄関はゆったりとした広さがあり、杵と臼が置いてあって農家の一場面を思い出させる雰囲気となっている。 玄関前には長椅子を2個配置し、景色を眺めながら外気浴を楽しむことができる空間となっている。 廊下は車いすがすれ違うことができる広さがある。 居間兼食堂にはテレビやソファが置いてあり、食後にテレビを楽しんだり、利用者家族が栽培したという季節の花を飾ってあり、部屋が豪華な雰囲気となっている。 古くなった着物の切れ端を使ってタペストリーを作ったり、利用者と職員で制作した紙の工芸品がたくさん飾られている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ロビーや玄関に長椅子やベンチ・テーブルを置いてある 他のユニットの方々との交流もあり、自由に過ごせる時間、居場所の工夫をしている	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持ち込みは自由である 食器や家族写真・位牌・カレンダーなど居室内を心地良い空間に変えて過ごしている 居室から見える中庭に好きな花を植えて育てている方もいる	居室にはエアコンやベッド、洗面台、カーテン、整理箆筒が備え付けられている。 管理者は使い慣れた物品を持参して貰えるよう説明しており、利用者は寝具類や衣装ケース、目覚まし時計、家族の写真、位牌、手作り作品、ラジオ、商店のカレンダーなどを持ち込んで、居心地よく暮らせるよう工夫している。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物をたたむ人・テーブル拭き・ゴミ箱折りなどそれぞれができる事への出番、楽しみ方を見出している	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームもくれん

作成日 平成28年10月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所理念をよく理解していない職員がいた。	全職員が事業所理念を理解して日々利用者に関わるようになる。	話し合いを入れながら、全職員が理念を確認・理解していく。	6ヶ月
2	6	定期的に職員の内部研修を行うまでに至っていない。 記録の記入がされていない	身体拘束に関する研修を行う。 経過や結果を記録に残す。	内部研修・研修を行い、身体拘束の弊害を職員に周知する。 経過観察記録や再検討記録の整備を行う。	1年
3	10	意見箱や自由ノートに意見があがってこない。	利用者や家族等から意見、要望を上がってくるようにその意見を運営に反映させる。	無記名のアンケートを実施する。	6ヶ月
4	23	利用者の思いや希望を把握した時、そこに居た職員だけが理解していた。	全職員に周知できるようにする。	全職員に周知できるように、回覧ノートを作成し実行する。	6ヶ月
5	35	反省点を記録に残していない。	訓練後、職員で話し合い、次回に繋がる反省点を記録に残す。	今後は反省点を含め、記録に残していく。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。